

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自ら考え自己表現ができる 当たり前のことを当たり前にできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>
確かな学力の育成	自ら課題を解決する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> <li>・新学習指導要領に沿った授業改善を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・生徒同士が学び合い活動し合う場面の導入を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> <li>・新学習指導要領に沿った授業改善を進める。</li> </ul>
豊かな人間性を育む	命を大切に生き方を認める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切に学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切に学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切に学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>
健康・体力の増進	運動が好きという生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング（準備運動やランニング、筋力トレーニング）を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング（準備運動やランニング、筋力トレーニング）を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング（準備運動やランニング、筋力トレーニング）を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>
支 援 教 育 の 充 実				

## 2

# 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査



### (領域ごと)

- |            |             |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと      | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと      | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項      | 概ね良好な結果であった |

### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった

### (その他)

最も正答率が高かった設問は「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ」であった。逆に最も正答率が低かった設問は「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ」であった。

最も無解答率が高かった設問は「伝えたい事柄について、根拠を明確に書く」であった。

### 分析

全体の正答率は、概ね良好である。

領域別について、「話すこと・聞くこと」において、正答率が低い、「言語事項」においては全国平均を上回った。このことから、「話すこと・聞くこと」に関しては、授業において、この領域を取り扱う時間が少なく、問題形式での取り組みが少なかったと考えられる。言語事項においては知識が定着してきていると考えられる。

## ○●数学●○

### (領域ごと)

①数と式	概ね良好な結果であった
②図形	概ね良好な結果であった
③関数	概ね良好な結果であった
④資料の活用	概ね良好な結果であった

### (問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

- ・数と式において、基本的な計算の正答率が全国平均より低かった。
- ・図形においては、半分以上の問題で正答率が全国平均より高かった
- ・関数においては、平均して正答率が全国平均より低かった。
- ・資料の活用は全体的に正答率が低かった。
- ・すべての問題について無解答率が全国平均より高かった。

### 分析

「数と式」の領域では、四則計算など複数の手順を踏む計算において全国平均を下回る正答率であったものの、文字を使った説明では全国平均を上回った。また「図形」の領域では、大きく全国平均を上回った問題も含め、全体でも全国平均を上回った。このことから、知識による解答が可能である問題は成果があったが、いくつかの手順を必要とする複雑な計算などでの課題が見受けられる。

「資料の活用」の領域においては、全国平均を大幅に下回っていた。これについては、練習不足が要因として考えられ、知識の定着を図っていく必要がある。

全体的な課題としては、ひとつは計算力不足。繰り返し問題を解くことに慣れておらず多様な問題に対応しきれていない。もうひとつは無解答率が全国平均を上回っていることである。難しい問題に直面したときに、早々に諦めてしまう傾向が強い。

## ○●英語●○

### (領域ごと)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ①聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②話すこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④書くこと | 概ね良好な結果であった |

### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった   |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

- ・「聞くこと」に関する「知識」に関する選択問題が最も正答率が高かった。
- ・「聞くこと」に関する「外国語理解の能力」を「活用」させる記述式の問題が最も正答率が低かった。
- ・無解答率は概ね府や国よりも低い、が、「書くこと」に関する「知識」を短答式に書かせる問題が府・国の平均より高い。
- ・「話すこと」については無解答率は低い、が正答率も全国平均より低い。

### 分析

「聞くこと」「読むこと」及び「書くこと」に関しては府の平均及び国の平均を上回り、全体として概ね良好な結果である。

「聞くこと」における最終問題、意見を英語で記述する問題に対しての無解答率が高い。日々の取り組みに取り入れるべき課題である。

「書くこと」については、比較的自由度の高い問題に対しての正確な英文の記述が苦手な生徒が比較的多い。杓子定期的な英訳や文法のみを意識した英作文を超えた指導が必要だと考える。

「話すこと」については無解答率は全国よりも低いものの、正答率も全国よりも下回っている。4領域のバランスを整えた指導をする必要がある。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

[国語] では「話す・聞く」、[数学] では「資料の活用」の正答率が低く、経年で見ると平均正答率は下がってきている。

また無解答率は昨年より下がったものの、増加傾向であり課題である。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層 についての分析

学力高位層・低位層ともに年度によって上昇・下降を繰り返している。傾向としては、学力中位層が全国に比して多く、低位層は増加傾向である。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### <国語科>

◎国語に関する基礎的な力に、やや課題が残った。記述問題や読解問題の学習は継続して、適宜課題として与え、定着を図っていく。また、問題形式で課題に取り組みさせるという時間も増やしていきたい。

◎「話す・聞く」能力向上のため、授業形態を工夫し、他の生徒の前で自分の考えを発表させるような形式の授業や、話し合い活動を主体的に行うような授業に積極的に取り組んでいきたい。コミュニケーション能力が問われている昨今、話し合いや討論の基礎的な手立てなども丁寧に指導していく必要がある。そのうえで、「話す・聞く」に関しても授業の中で問題形式で取り組みさせるという訓練の時間を増やしていきたい。

#### <数学科>

◎授業形態を問わず、身に付けた知識を、根拠や意味の理解にまで掘り下げていき、横断的に活用していくことができる知識として発展・定着させていきたい。そのために、こまめに練習プリントをおこない生徒たちの理解を確認する必要がある。

◎知識を伝達するだけの講義型授業ばかりに偏るのではなく、自ら考え課題を解決していく問題解決型の授業も盛り込んでいく。また、学びあいを意識しつつ、生徒どうしで教えあえるような環境づくりもすすめていきたい。

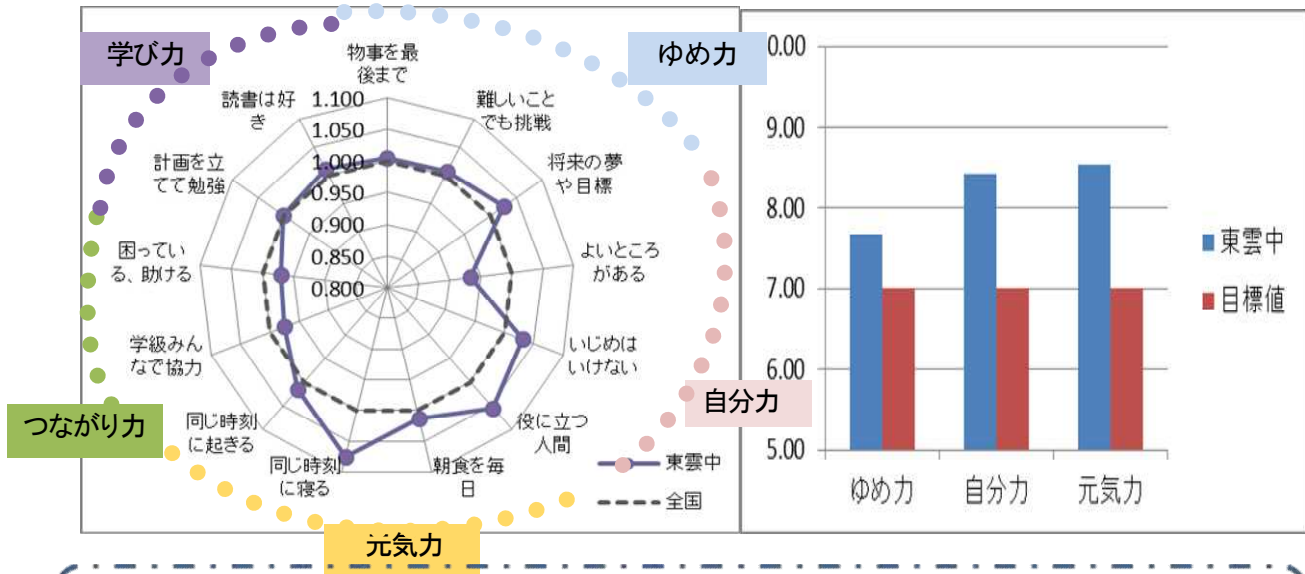
◎どの領域でも数学的な操作や活動を多く取り入れていくための準備（教材研究）を進めるとともに教科内での交流も積極的に行っていく。合わせて、ICT機器の活用や見たり触ったりできる教材により想像力を刺激していくこと、班学習を充実させ生徒間でのコミュニケーションを通しての学習活動の練り上げ、この2点から生徒たちの活動、学びにつなげる。

◎無解答率の高さにおいて、課題意識を持つ。できることだけやるのではなく、難しい困難なことにもチャレンジしていく気持ちや自信を、数学の授業だけでなく、行事や日々の活動のひとつひとつを通して育んでいきたい。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較

5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

「ゆめ力」「自分力」「元気力」ともに、目標値は上回っている。

- ◎【ゆめ力】『将来の夢や目標を持っていますか』という問いに対して、「その通り」「どちらかと言えば…」と回答した生徒は、全国平均より高い73.2%であった。「その通り」と、より積極的な回答をした生徒も全国平均を上回り、昨年度からの改善が見られる。
- ◎【自分力】『いじめはいけない』『人の役に立つ人間になりたい』という設問では、「その通りだと思う」「どちらかと言えばそう思う」を95%以上の生徒が選択し、肯定的回答は全国平均を上回っており、昨年度からの改善が見られる。ただ、『自分にはよいところがあると思うか』という設問に対する肯定的な回答が全国平均を下回っており、自分自身に対する自信を持てずにいる生徒が未だに少なくないことが、本校が目指すべき一つの方向性を示している。
- ◎【元気力】『朝食を毎日食べていますか』『毎日、同じくらいの時刻に起きて／寝ていますか』という設問においては、昨年に引き続き全国平均を上回っている。このことから、多くの生徒たちが、家庭生活における「基本的な生活習慣」を身に付けているということが伺える。
- ◎【つながり力】「みんなで話し合っって協力して取り組む」「人が困っている時は、進んで助けていますか」の設問では、「その通り」「どちらかと言えば…」の肯定的意見の総数では全国平均を上回るが、より積極的な姿勢では全国平均を大きく下回っている。これは日常の学校生活の中で、そういう場面が少ない事にも原因があり、授業の在り方を見直すことで改善できる可能性があると考えられる。
- ◎【学び力】『家で自分で計画を立てて勉強していますか』という設問については、全国平均とほぼ同じ結果となり、昨年からの改善が見られる。ただ、「全くしていない」と答えた層が13.2%存在し、家庭学習の習慣が全くない生徒に対する手立てが必要である。いずれにせよ、「自身で計画を立てて学習する」姿勢を培ってゆく必要がある。

## 取組み

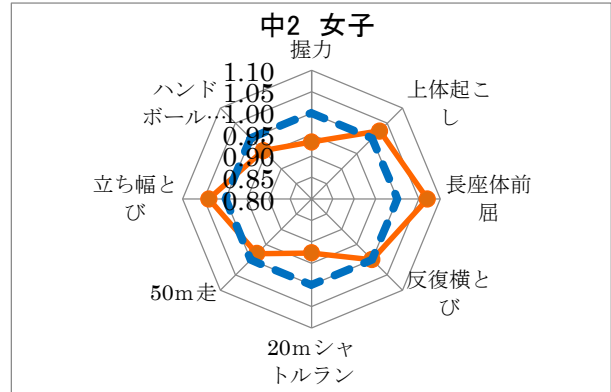
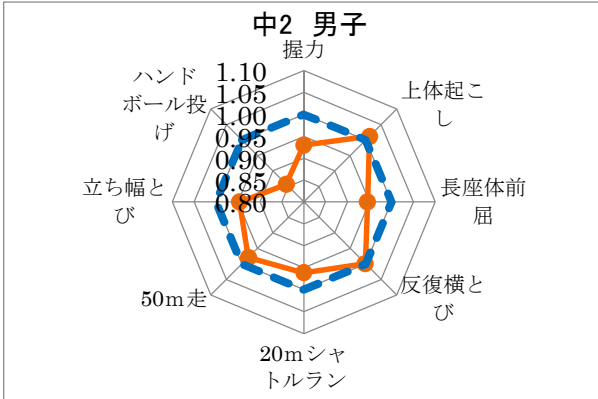
- ◎学校での全ての教育活動において、子どもたち同士をつなげていくことを最重要事項として意識して取り組んでいく。行事だけでなく、日々の各教科の授業の中で、生徒同士が学び合い、活動しあう場面を積極的に導入していく。互いの考えを交流し、認め合う作業の積み重ねが居場所を実感させ、自己肯定感を高めると共に他者への意識を成長させていくことにつながっていくと考える。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

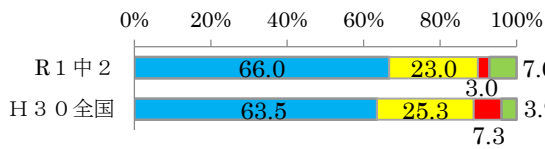
○●体力●○

男子 (中2)

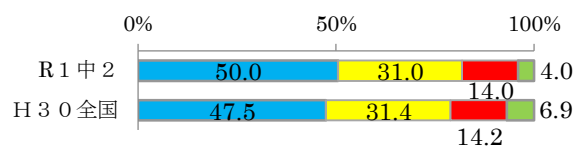
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

全国平均値から分析すると、今年度の2年生女子は長座体前屈と立ち幅跳びが全国平均よりも高い数値を示している。握力や20mシャトルラン、50m走、ハンドボール投げは下回っている結果となった。

男子は上体起こしと反復横跳び以外は、全国平均より下回る数値となった。特にハンドボール投げは、大きく下回る結果となった。

「運動やスポーツが好き」と答えている生徒は、男女ともに全国平均を上回っている。体育系の部活動に参加している生徒が多いこともあり、授業では生徒が積極的に体を動かす姿勢がみられる。

取組み

現在も継続して行っているが、体育の授業で、ランニングや、男子は筋力トレーニング（腹筋、背筋、腕立て伏せ、馬跳び）を、女子は体幹トレーニングを毎回継続して取り入れている。

男女ともにソフトボールの授業を中心に投げ方の指導を行う。

運動習慣の二極化がみられるため、運動の楽しさや体づくりの大切さを保健体育の授業で伝えていく。

今年度も、希望部活だけにはなるが、小学校の栄養教諭を招いて、食事指導など食育の面の指導を行ってもらった。

各生徒が個人のデータを見て、検証する時間をとり、体力面の足りない部分を意識できるようにする。